



大野一心

NO.48

令和6年2月14日（水） 文責：校長 諸熊 修一

出張に行ってきました

2月9日（金）に東京都で開催された「全国学校安全教育研究大会」に参加してきました。シンポジウムがあったのですが、東日本大震災の時に、後（のち）に「※釜石の奇跡」と言われた中学校に勤務していた先生がシンポジストとして登壇されました。毎年行っていた避難訓練が震災の際にとっても役立ったという貴重な話を伺うことができ、特に「教育は人づくり」ということばが、とても印象的でした。



公開授業は小学校のみでした。高学年を中心に参観しましたが、「交通事故を防ぐためにはどうしたらよいか考えよう（体育）」「大きな地震により自分たちが住んでいる地域はどのように変化し、どのような被害が出るだろうか（理科）」「災害時に自分たちが住んでいる自治体はどのような取組をしているのだろうか（社会）」「SNSを安全に使うために気を付けることを考えよう（学級活動）」など、中学校の「めあて」でも十分に通用する内容の授業を多く参観することができ、とても参考になりました。

子どもの視点から安全教育を考えさせることの大切さと共に、学校は生徒の命を預かっている場所であるという大きな責任感を再確認した一日でした。学んだことを本校職員とも共有していきたいと思います。

※ 東日本大震災の時、釜石市立東中学校と、隣接する鶴住居小学校が津波にのまれた際、児童生徒は津波から自主的に避難し全員無事だったことから「釜石の奇跡」として報じられました。

校長のひとりごと



今日はバレンタインデー。一説によると、チョコレート会社の経営戦略が始まりだと言われています。私の小学生の頃には既にバレンタインデーは普及していました。当時の小学生は義理チョコなんて言う言葉はなく、すべて本気チョコでした（だったと信じたいです）。私が小学4年生の頃だったと思いますが、朝登校したら机の中にチョコが1個入っていました。嬉しさよりも恥ずかしさが先に立ちました。こそっとランドセルに入れて、チョコをくれた女の子には見向きもせず、早く一日が終わらないかなと思ったものです。

中学生の頃にはすでに義理チョコが登場していたのですが、当時ひそかに思いを寄せていた女子からもらった義理チョコ（残念ながら間違いなく義理チョコでした。なぜなら私の友達ももらっていたからです）を食べることができずに、賞味期限が切れてしまったほろ苦い思い出もあります。

最近「友チョコ」などもあるらしく、娘たちが中学生の頃は友達に手作りのチョコをたくさん作っていました。娘たちが家にいる頃は、その「友チョコ」のおこぼれを毎年もらっていました。今年は娘たちが家にいません。ですから帰宅しても・・・。

この年になってもチョコレート会社の経営戦略に翻弄（ほんろう）されている私です。